



医王山小学校

所在地：金沢市二俣町さ 2 1

電話：076-236-1013 F A X：076-236-1577

HPアドレス：<http://www.kanazawa-city.ed.jp/iouzen-e/>

校長名：山本 秀紀

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	合計
児童数	8	5	3	6	5	6	2	35
学級数	1	1	1		1		2	6

	校長	教頭	教諭等							養護	事務	校務	他	合 計
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	特学					
職員数	(1)	1	1	1	1	1	1	2	1	(1)	1	(1)	0	9

1 平成21年度学力向上の取組内容の検証

基礎学力向上のために、ドリル学習の時間の確保、月に2回の力試しテストと9割を超えない児童への個別学習の徹底、地図や辞書で調べる活動を多く取り入れる、文章を書くことに慣れさせる、読書活動を充実させるなどで基礎学力は付いてきた。また、活用力を付けるために、授業で活用力をつける問題を意図的に解かせたり、長い文章を読むことに慣れさせたり、条件を与え、条件に即して文章を書かせたり、ノートやワークシートを活用し、根拠となる理由を明らかにさせて、考え・予想・感想・調べたこと・ふり返り・まとめ等、自分の学びを書く時間を設定したり、丁寧に文字を書かせることを重視して取り組んだが、まだ、活用力では課題が残っている。継続して指導をしていきたい。

また、表現力を付けるために、発表の機会を設け、家庭と連携した音読の習慣化、読書活動の奨励を行ったところ、一人で堂々と話す力が付いてきた。さらに豊かな表現力を育成するために、多様な話し方を紹介し、表現力のスキルトレーニングを続けていきたい。また、大勢の前でも堂々と表現する機会を多く設け、より一層の表現力を付けていきたい。

2 学力等の現状分析

まじめな学習態度であり、学習意欲もある。意識調査からも学習に対する関心があり、授業がわかるという割合が高く、家庭学習も定着している。しかし、家庭でのテレビを見る時間、テレビゲームをしている時間が長く、読書量が少ない。そのためか、基礎的な力は付いているが、活用力、応用力には個人差があり、正しく問題文を読み取る力が不足していたり、書く表現力は不足し、記述式の問題、活用力が問われる問題に課題が見られた。

教科の現状としては<国語>では、文章の読み取りが不十分であり、特に初めて読む文章、長文の理解力が不十分である。自分の思いを自由に書くことはできているが、条件がついているものの記述は課題である。<社会>は、基本的な知識は定着しているが、資料から考えたり、予想したことを記述する問題、複合的な資料を読み取る問題に課題がある。また、地図縮尺、世界地図の見方は定着していない。<算数>は基礎的な計算力は定着しているが、活用力が問われる問題になると問題の読み取りが不十分であり、そのために問題を解けないことが課題である。<理科>でも、知識は定着しているが、自分の考えを根拠づけて記述する問題の記述が不十分である。また、複合的な資料を読み取る問題に課題がある。4教科において共通している読み取る力の不足は、意識調査からもわかるように、宿題以外の家庭学習への取り組みが少ないことや、家庭での読書量の少なさ、読書のジャンルの固定化にも関連していると思われる。

3 学力向上の取組

(1) 基礎的・基本的な知識・技能の定着のために

- ア 朝自習時や家庭学習でドリル学習を徹底し、全校での第2、4金曜日の漢字・計算基礎テストを継続して行う。9割を超えない児童には、休み時間や放課後に個別学習を行う。
- イ 単元に関連ある既習事項の定着度をプリントや事前予備テスト等で把握し、定着していないものは授業の中で取り扱い、知識の定着を確かなものにする。
- ウ わからない言葉の意味や漢字をいつでも調べられるように国語辞典、話題に出た時に関連付けて地名、場所を確認できるように地図を児童のそばに置くなど、すぐに調べることができる環境作りをする。
- エ 授業の中で予想、理由、ふりかえりを書かせたり、連絡帳に1行日記を毎日書かせるなど、

文章を書くことに慣れさせ、その都度、赤ペンを入れて文章の書き方を指導する。

オ 各教科の用語が正しく使えるように、普段から意識させる。また、語彙力を付ける工夫や教師の言葉遣いなども含め、言語環境を整える。

(2) 知識・技能を活用する力を付けるために

ア 国語では、読解力を付けるために読書活動を充実する。読書のジャンルを広げ、いろいろなジャンルの本を読むことにも意識させていく。読書量を増やすために学校だけではなく、家庭にも呼びかけて家庭読書の習慣も付けていく。また、長い文章を読むことにも慣れさせる。登場人物の心情、場面描写をとらえて内容を整理したり関係付けたりするために線引き、メモを書くなど言語活動を充実させ読解力を付ける。さらに条件を与え、条件に即して文章を書いたり、書き換える練習をさせていく。

イ 算数では、意識的に絵、数直線、線分図、図式化することを習慣にさせ、問題場面を理解させるとともに答えを導き出す手だてとさせる。授業の中での発表にも理由、結論（～だから～になります。）という説明の仕方を意識させ、式や言葉などを用いて説明や記述をする活動を多く取り入れる。また、複数のグラフの読み取りも意識的にさせていく。

ウ 社会、理科では、ノートやワークシートを活用し、根拠となる理由を明らかにさせて考え、その授業のキーワードを入れて、予想・感想・調べたこと・ふり返り・まとめ等、自分の学びを書く時間を設定し書かせる。複合的な資料の読み取りも授業で多く取り入れ考えさせる。

(3) 表現力の育成のために

ア 表現力を高めるために、意図的に多人数の中での発表の機会を設けたり、全校で音読カードに取り組んだり、家庭と連携した音読週間を設けたりして、声に出すことへの抵抗感をなくす。

イ 教師による読み聞かせ、表現力のある児童の話し方を全校の前での披露、段階的な表現力スキルトレーニングで表現力を高める。また、書く・聞くの言語活動も意識的に取り入れる。

(4) 少人数を生かした効果的な指導

ア 学習状況やテストなどは、個々の分析を行い、個にあった学習計画を立て、個別指導をしていく。

イ 全職員で情報交換を密にして、全校児童の学力、表現力の状況を把握し、学力向上のための支援に努める。担任以外でも学習を進められる体制作りをする。

4 その他の取組

(1) 小中連携教育の推進

ア 一昨年度作成した『小中9年間を見通した学習内容の一覧表』を活用、『9年間で付けたい力と手だて』を活用して、小中一貫した指導の推進を図る。

イ 児童の個人学習状況票を作成し、児童の現状を分析しながら学力向上を図る。

ウ 授業の連携、相互参観、研究授業等の実施を通して日常的な意見交換や指導法を学び合う。

エ 小中連携の研究として、小中学校の全職員を『小中教科部会1（算数・理科・体育）』『小中教科部会2（国語・社会・英語）』の2つの部会に分けて、教科等指導を中心としての言語活動の充実に重点を置き、研究を継続して進めている。また、小学校6年から中学1年時の移行をスムーズにつなげるためにどんな手だてをしていくかを課題として研究を進めていく。

(2) 言語活動の充実

今年度は言語活動の充実に力をいれて行き、授業では主語、述語を意識した文を書かせる、絵や図や数直線を使い説明するなど言語活動を充実させる工夫をした授業を展開していく。

(3) 家庭との連携

ア 学級通信や連絡帳などで保護者への理解と協力を促し、家庭との連携による家庭学習を推進して基礎的事項の習得を図る。

イ 家庭学習強化週間を設けたり、音読カード、計算カード等を活用し、保護者から聞いてもらい評価してもらったり、感想を書いてもらうなどで保護者にも学習状況を知らせ、毎日の家庭学習の充実と児童への励ましによる意欲の持続を図る取り組みをする。